

受賞企業の製品について説明する石井知事＝県庁



第1回県ものづくり大賞

「コマンツTC決まる」

県は22日、本年度創設した「県ものづくり大賞」(北日本新聞社共催)の第1回大賞にコマンツTC(南砺市福野、堀井弘之社長)の「太陽電池向けマルチウエハースライサPV800H」を選んだと発表した。優秀賞は東亜薬品富山市三郷、中井敏郎社長)の「バンコマイシン眼軟膏1%」、特別賞はワシマイヤー(高岡市福田六家、小野稔社

長)の「エコホイールRE-L」と、エムダイヤ(滑川市中村、森弘吉社長)の「エコセパレ分離・破砕機」に決まった。表彰式は29日、高岡市のホテルニューオータニ高岡で開かれる。

北日本新聞社の「企業グランプリ富山」の精神を踏まえた顕彰事業で、県内に本社がある企業のうち、3年以内革新的な製品や高度な生産技術を開発・実用化した企業を表彰する。県経営者協会、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体中央会が協賛する。

コマンツTCは、太陽電池用のシリコンウエハ(半導体の基板)を薄く切断する装置を開発。高度な制御技術で歩留まりを向上させるとともに生産時間を

短縮し、世界シェア50%を占めている。東亜薬品は、メシチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の治療薬バンコマイシンを、独自技術により世界で初めて眼軟膏として製品化した。ワシマイヤーは独自の鍛造

技術で従来品より35%軽量化したエコカー用アルミホイールを開発。エムダイヤは、廃家電などをリサイクルするため、粉砕と分離を1台の装置で行うシステムを開発した。

県ものづくり大賞には25件の応募があり、梶村皓二機械振興協会副会長を委員長とする審査委員会が審査した。石井知事は同日開いた会見で「国内外へ胸を張れる製品や技術の応募が期待以上であり、大変成果があった」と話した。